

一関市議会 総務常任委員会 記録

会議年月日	令和4年3月7日(月)			
会議時間	開会	午後2時44分	閉会	午後3時15分
場 所	第2委員会室			
出席委員	委員長 沼倉憲二		副委員長 佐藤幸淑	
	委員 小岩寿一		委員 千葉栄生	
	委員 佐々木久助		委員 佐藤浩	
	委員 武田ユキ子		委員 千葉幸男	
遅刻	遅刻 なし			
早退	早退 なし			
欠席委員	欠席 なし			
事務局職員	千葉局長補佐兼議事係長			
出席説明員	市長公室次長ほか2名			
本日の会議に付した事件	所管事務調査 ・第2期一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について			
議事の経過	別紙のとおり			

総務常任委員会記録

令和4年3月7日

(開会 午後2時44分)

委員長 : ただいまの出席委員は8名です。

全員の出席ですので、これより本日の委員会を開催します。

録画、録音、写真撮影を許可しておりますので、御了承願います。

本日の案件は、御案内のとおりであります。

所管事務調査を行います。

本日の調査にあたり、市長公室次長の出席を求めたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

委員長 : 異議ありませんので、議長を通じて、市長公室次長の出席を求めることにいたします。

(当局入室)

委員長 : 第2期一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定についてを議題とします。
当局の説明を求めます。
菅原市長公室次長。

市長公室次長 : 第2期一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定案について説明いたします。

初めに、今回の改定の経過について説明させていただきます。

第2期一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、令和3年3月に策定いたしました。毎年度、ローリングにより新年度予算を反映して、年度末に改定することとしており、今回も令和4年度当初予算を踏まえて、今年度末に改定を行うものであります。

まず、改定の内容に入る前に、総合戦略の進行管理について説明させていただきます。

総合戦略では、令和3年度から令和7年度までの5年間を対象期間として、基本目標や施策展開の基本的方向及び具体的施策を示しておりますが、3つの基本目標

ごとに数値目標を設定するとともに、施策展開の方向性として定めた項目ごとに、K P I と呼ばれる重要業績評価指標を設定して、効果検証を行うこととをしております。

施策の進行管理や効果検証につきましては、庁内組織である一関市まち・ひと・しごと創生本部や、外部有識者による一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議において行うこととしており、今年度はこれまで、まち・ひと・しごと創生本部に設置している総合戦略策定部会を2回、有識者会議を2回開催したところであります。

それでは、資料の説明に移りたいと思います。

資料1をごらんいただきたいと思います。

資料1は、第1期総合戦略の基本目標と、K P I についての令和2年度末の状況をまとめたものとなっております。

1ページ目は、総合戦略の4つの基本目標についての数値目標と、令和2年度の実績値の一覧となっております。

基本目標の1、市民が力を発揮できる仕事を創出し、若者や女性が集うまちを目指しますにつきましては、年間の転出超過者数を指標としており、平成26年の現状値から減少させることを目指す指標ですが、平成26年の現状値448人に対し、令和2年の実績値は583人となったところであります。

同様に、基本目標の2、社会全体で子育てを支援し、子育てしやすいまちを目指しますは、合計特殊出生率を指標としており、統計の公表の関係から、1年おくれの令和元年の値となりますが、実績値は1.32%となり、平成25年の現状値1.58%から低下傾向にあります。

基本目標の3、心豊かに安心して暮らせる、住みたい、住んでよかったまちを目指しますは、65歳以上の人口に占める要介護認定者の割合と、メタボリックシンドローム該当者及び予備群該当者の割合を指標とし、いずれも平成26年の現状値から低下させることを目指す指標であります。

65歳以上の人口に占める要介護認定者の割合は、平成26年度15.7%に対し、令和2年度の実績値は17.8%と上昇し、また、メタボリックシンドローム該当者及び予備群該当者の割合は、統計の公表の関係から令和元年度の値となっておりますが、実績値は30.4%となり、平成25年度の実績値25.8%に対し上昇したところであります。

基本目標の4、未来へ引き継がれる、誇りと愛着が持てるまちを目指しますは、市民センターの利用人数を指標としておりますが、平成26年度、49万2000人に対し、令和2年度の実績値は33万8000人となっております。

2ページ目をごらんください。

こちらは、K P I の令和2年度末の状況ということで、基本目標を達成するための施策展開の基本的方向の項目ごとにK P I を設定しておりますが、目標値に対する実績値の達成状況をまとめたものであります。

K P I につきましては、それぞれ年度ごとの目標値を設定しており、目標値に対

する実績値の達成率により、AからEまでの5段階にランクづけをしたものであります。

令和2年度末の状況につきましては、表の下の計の欄となりますが、全部で55の指標のうち、令和2年度の目標値を上回ったものがAの欄の14指標で全体の25.5%、目標値を80%以上達成したものがBの欄の8指標で、全体の14.5%となっており、全体の40.0%の指標につきましては、おおむね順調に推移しているということになります。

一方で、達成率が50%未満であるDランク、達成率がマイナスであるEランクが、合わせて全体の47.3%にあたる26指標あったところであります。

これらの指標につきましては、要因を分析して、今後一層の取り組みを行うこととしております。

なお、指標名、目標値、実績値、達成状況、実績値に対する評価及び今後の取り組みについての詳細につきましては、資料2が一覧表となっておりますが、本日は時間の関係から、項目ごとの説明は省略させていただきます。

次に、改定の内容について説明をさせていただきます。

これまでの改定は、総合戦略の基本目標や、施策展開の内容など、構成の根幹の部分は変更せず、各施策の達成度をはかる重要業績評価指標KPIや、掲載している具体的な事業について、最新の状況に合わせてきたところであります。

今回の改定につきましても、主に掲載する具体的な事業につきまして、令和4年度の新規事業などから、総合戦略の施策の方向性と合致するものを新規に掲載するなどの整理を行うものとしております。

資料3をごらんいただきたいと思います。

資料3は、第2期総合戦略の施策分野ごとに掲載している具体的な事業の対照表となっており、右の欄が今回改定しようとする内容となっております。

新規事業から新たに掲載する事業といたしましては、例えば、資料3の2ページ目にあります一関農業継承事業は、農業経営を中心とする農家と新規就農希望者間において、生産基盤の継承を推進するため、継承を前提とした農家研修に要する経費に対し補助するものであります。

また、5ページにあります下宿等費用補助金であります。こちらは勉学やスポーツ、芸術等の目標達成に向けて、親元を離れ、市内の高校、高等専門学校等に通学する高校生、高等専門学校生等の下宿、アパート等の家賃に対し補助するものであります。

女性にやさしい職場環境整備事業費補助金は、女性にやさしい職場環境整備を支援するため、女性の視点に立って、事業所等の更衣室、トイレ等を改修する場合の経費に対し補助するものであります。

これら新規事業の掲載を行うほか、終了する事業の削除や事業名の修正等の整理を行うこととしております。

最後に、改定までの今後の流れについて説明いたします。

本日、お示しした改定案は現時点のものであり、今月14日、来週になりますが、一関市まち・ひと・しごと創生本部の総合戦略策定部会を開催し、改定内容について庁内での協議を行うこととしております。

同じく翌日になりますが、15日に、一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催して、外部有識者から御意見をいただき、その後、今月末に市長決裁により改定することとしております。

説明は以上となります。

よろしく申し上げます。

委員長：これより質疑を行います。
質疑の方は挙手の上、発言願います。
佐藤委員。

佐藤委員：先ほど次長の説明にあったとおり、これは毎年3月に、年度末に改定するのだということで、令和7年度までは、毎年毎年この時期に出して、4月以降に事業実施をするということのようですが、それを事前に、予算編成をする前まで、これをさかのぼるということは、担当者のほうからこれを上げてやって、予算化されて、初めて4月からの実施ということでしょう。

とすれば、その前に、その予算要求の段階に、私どもにそういった事業を考えているということを示すことは無理なのでしょうか。

委員長：菅原市長公室次長。

市長公室次長：改定内容を予算編成の時期にというのはかなり難しい状況かというように思っております。

予算要求して、まだ査定も入っていない段階での説明となりますと、どうしてもその事業がひとり歩きしてしまったりしますので、どうしてもこの時期になってしまうのかなというように捉えております。

委員長：佐藤委員。

佐藤委員：結局、内容についてはそういった格好で改訂しながらやっていくということではいいのだけれども、このように予算がついたからこうやっていきますよということだと、私どもが説明を受けた段階で、いやそれについてはもう少しこういった工夫がほしいのではないかというようなことを論ずる場面がないというか、当局で決めましたよ、来年度はこのようにやっていきますというようなお話で今説明されているけれども、例えばその予算が具体的にないにしても、来年度については、一つはこの分野について、手を加えたいとか、こういう格好で予算要求したい、こ

これは予算要求して初めて実現した内容ですよ。

そういうことからすると、その時点ではちょっと私たちと意見交換するような場があってもしかりではないかという思いがするのですがいかがですか。

委員長：菅原市長公室次長。

市長公室次長：佐藤委員のおっしゃっているとおりですが、その時期については、意見交換をする場ということであれば可能かなというように捉えておりますので、検討させていただきたいと思っています。

委員長：武田委員。

武田委員：基本目標というようなものをお示しいただいて、実績になると職員の方々も納得できるような結果ではないということになり、いろいろな会議を経て、このようなものに取り組んでいくという、その中身がさっぱり見えないというか、何をどうしてこういうようになったのか。

相対的なこういうようなもので、例えば、一番のところも、もっと実績値は583人と言うけれども、そもそも、この間でもかなりの人口が減になっているわけです。

にもかかわらず、出て行く人が多い、分母が少なくなっているにもかかわらず、出ていくのがふえているというのは、インパクトと言え、これ以上のものがあるということ、数字以上のものがあるというように私は認識をするところがあります。

そうしたいろいろなそのものの要因を分析して、新たな取り組みをしたというような中で、皆さんが、いろいろな会議を持って、その議論をして、ここに到達したというのが見えないので、全くこんなもの見せられても何を質問したらいいのというような話になりますよね。

例えば、自信を持って、今度はこの実績値を目標値にするために、これとこれは目玉だとかというようなものがあればお示しいただきたい。

委員長：菅原市長公室次長。

市長公室次長：目玉というのが、この資料1の目標、4つ掲げておりますが、こちらが第1期の総括的なものなので、今は第1期に入っておりますので、それについてはまた改めてになりますが、まずもって、これが1番の目標値だと私たちは認識しております。

委員長：武田委員。

武田委員：それ以上のもの、これ以外のものを見せていただいていないので、これをベース

にお話しをしていますが、いずれその後の資料についても、おそらくトータル的にデータを分析した結果、これに遠からずなのだろうというように想定をした話ですが、間違っていたら教えていただきたい。

そういう中で、そういったなかなか目標値に到達できないということの要因分析をしたのだらうと思うのです。

その結果をこのところがこういうことに不足だったからというような、そういう私たちにお示しできるような事業展開はどれなのか。

どういうことで、この目標値に近づけようとする、そのものの事業の中で、これらは今までの考え方から事業名が変わったというだけだけれども、事業名が変わったといっても事業そのものの中身を変えていかないと、名前だけ変えたといってもその中身を変えなければ全く意味をなさないということなので、この事業名が変わったという説明欄はあまり芳しくない業務だと思いますが、いずれにしても、大きくどういったところに要因があって、その目標値に到達できなかったみたいなのが、もし持ち合わせていたら教えてください。

委員長：菅原市長公室次長。

市長公室次長：本日、資料2でお示ししておりますが、こちら、例えば基本目標の1に年間転出超過者数がございます。

中段ごろに、令和2年度実績値583人と超過者数が出ておりますが、それに対する評価というのが右の欄に記しております。

あと、第1期総合戦略の取り組みに対する評価といったところも、こちらに入れておりますし、今後の取り組みとしてどういったことをやっていくかということ、さらに右の欄に記して、以下、同じように、各施策ごとにこういった評価をしながら進めているところであります。

委員長：武田委員。

武田委員：行き着くところは佐藤委員がおっしゃったことに尽きるのだと思うのです。

専門部署でやって、後、有識者会議もやってということで、修正修正して、その毎年度目標値に到達できるような模様がえをして頑張っているという話だけれども、それでは、なかなか難しいという姿が見えてきているのではないかというようにも思われるので、では私たち議員がその知見を持っているかと言えば、持っているとも思えないということもあるだろうと思いますが、いずれ、もう少し、この中身を早目に開示して、あらゆる角度から、やはりその次の展開に向けての、何かこう議論をする場が、私は必要ではないかと、がゆえに、先ほどの佐藤委員がおっしゃったような、どこかのタイミングでこれをオープンにして、次の予算なりに反映をしていくという、そういうそのシステムを変えなければならないのではないかな

というように思います。

役所の中だけで揉んだり、有識者何人かで話をするというものでは、もう限界ではないですかというような思いをしていますが、そのシステムを変えていこうとするような思いはどのようなのですか。

委員長：菅原市長公室次長。

市長公室次長：先ほど佐藤委員にもお答えしたものと様になりますけれども、この取り組み達成状況につきましては、大体年内に行っておりますので、その際にタイミングを見ながら、皆さん方の意見を聞きながら、取り組んでいきたいというように考えております。

委員長：佐々木委員。

佐々木委員：今示されている資料は第1期の令和2年度の実績値というように説明をいただきました。

平成26年に令和2年度を設定に目標値を示してきたと。

説明の中で、今は第2期に入っておりますと。

そうすると、第2期の何年度に目標設定値をおいて、その目標値というのを定めているのかどうか。

委員長：菅原市長公室次長。

市長公室次長：第2期につきましては、昨年、総合戦略を策定したところでありまして、現状値は令和元年度、そして目標値は令和7年度にしたところであります。

ですので、来年度に入りまして、時期についてはこれからまた検討しますけれども、皆さんにお示しする際は、こちらの表は第2期の分として入ってくるということになります。

委員長：佐々木委員。

佐々木委員：ということは、きょうの時点では、第2期の目標値設定はまだできていないということでしょうか。

委員長：菅原市長公室次長。

市長公室次長：今現在は令和元年度が現状値として捉えております。

第2期については、令和7年度の目標値を改定して設定して昨年お知らせしてい

るということです。

委員長：佐々木委員。

佐々木委員：とすれば、新年度に入って、先ほど佐藤委員の話があったように、取り組みが固まって説明だけ受けて終わりというのでは、なかなか我々も二元代表制の議員としての発言の機会の有効性を持たせるという意味では、不足感があるので、タイミングを捉えて、令和元年度の現状値からして令和7年度の目標値、それを踏まえて、きょう示された資料をベースに、意見交換をする場を設定してもらったらいいかかなというように思いますが、いかがでしょうか。

委員長：菅原市長公室次長。

市長公室次長：先ほど佐藤委員、武田委員からも御意見がありましたので、そのようにしていきたいと、取り組んでいきたいと思っております。

委員長：武田委員。

武田委員：いつも感じているのですが、いろいろな計画を緻密に立てていただいて、その目標値を設定していただいています。市民を巻き添えにしないと達成できないことってたくさんあるじゃないですか。

市民の行動というか、それが伴わないので、その施策がきちんと市民に伝わっていないのか、無関心なのかよくわかりませんが、言うなれば、通常言われる行動計画的なもの、市民と行政が一体となった行動を伴わなければ、こうしたいと言っても、では誰がどうするのかと言えば、それは皆さん市民ですよ、市民に働きかけがどのようになっているかという、意外と市民は、ああそうなのという感覚で、計画があったことそのものもなかなか御理解していただいているのではないかと、私は中間でこう思っているところがあります。

結果的に、だから大変失礼な話をした経過がありますが、これってその世の中の流れが結果的に実績なのではないのかと、どこに誰がどうやってこ入れしてこうしたとかああしたとかいうものが見えていないのがたくさんあるのではないですかという話を申し上げました。

私はやはりそのところに持ってこない、立派な計画が、その総動員で、それに向かって行動しなければ、計画が実のなるものにならないというように思うのです。

そのところにもう少し意を配した取り組みが必要ではないかと、計画と実績を追うだけではなくて、その中間点をどうやって喚起していくかということをお願いしたいと思います。

委員長：菅原市長公室次長。

市長公室次長：まさにお話しいただいたとおりだと思っております。

計画を策定して終わりではなくて、そこから実行をしていく中で、どのように市民の皆さんを巻き込んでいくのか、または啓発をしていくのかというところを、やはり計画の総元締めであります総合計画になりますけれども、その担当部署であります当課で、関係各課にもそういったところを呼びかけていきたいと思っております。

ありがとうございます。

委員長：そのほか、質疑はございませんか。

（「なし」の声あり）

委員長：ないようですので、以上で質疑を終わります。

以上で、第2期一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定についての調査を終了します。

菅原市長公室次長初め、皆様方御苦労さまでした。

（当局退室）

委員長：本日予定した案件は以上ですが、皆さんからほかに何かありませんか。

（「なし」の声あり）

委員長：ないようですので、以上で、本日の委員会を終了いたします。

大変御苦労さまでした。

（閉会 午後3時15分）